

# ぞうぐみさんダンスワークショップ

～聴覚障害のあるなし問わず  
幼児が主体となり創造するダンスワークショップ～

日程 2024年2月21日(水) 10:30~11:30  
会場 大和すぎのこども園ホール  
参加者 聴覚障害児1名を含む4歳児26名、先生

## 実施が決定してからの流れ

事前に施設での打ち合わせを行います。

お子さんの特性、先生やクラスメイトとの関わり、手話でのやりとりはあるか、クラスでの様子、クラスメイトの様子、興味がありそうなもの、苦手なものなど…。

会場の様子、広さ、  
最適な時間etc…



## 打ち合わせ内容をふまえ、チーム内でのミーティングを行い、ワークショップの目的を明確化します。

- ・手話が言語であるという認識をクラスメイトにも持ってもらう。
- ・言葉以外の身体を使った表現でもコミュニケーションがとれる、伝わる楽しさ、嬉しさを共有する。
- ・個人のアイディア、ひらめきをみんなで共有して、良さを認め合える場にする。
- ・安心して挑戦、失敗できる場にする。
- ・休んだり、見ていたい子もOKで、そのうえで疎外感はないようにする。
- ・それぞれ担当の役割も決めます。

## 「親しみやすいキャラクターにしよう!」

わかりやすい手話と色の名前のダンサーたちでいくことにしました。



はじめましてわたしの名前は

ピンクです

あおです

オレンジです

みどりです

いっしょにダンスしよう!

## 当日の様子



ゆるやかにおむかえ

手話でおはなしする2人

よろしくお願いします!



きちんと並んでちょっとカタい雰囲気



よーし。みんなでごろごろころがっちゃー!

みんなすごい!



リズムのまねっこ



まねっこのリーダーを変えていこう!



準備していたワーク内容はあったけれど、子どもたちの様子を見て、別なものに挑戦したり、臨機応変に対応していた裕子さん。空間の変化を把握して、子どもたちが飽きないように、意図を組んでくれるように絶妙にファシリテートしていました。

裕子さんに秘訣を聞いたところ

「感覚を使って察知していきます。少しのタイミングのずれで違うものになるので、今だ!と声かけしたり、次のワークに移行したりしています。失敗した経験もあるので、毎回すごく集中します。」とのことでした。



あちこちあるいて

決めポーズ!



めめーっとあるいて宇宙と交信  
ディフェンス横歩き寝っ転がって  
ぴょんぴょんぴょん

2分ほどの作品になりました

うごきのアイディアがすごい!



最後に輪になってすわっていたら

マイペースの様子を見ていた耳のきこえないAちゃんがすてきなポーズでまざってくれた

自然とみんなもまねして なんだか ふふふ

とっても心が通じ合う時間



すてきなダンスができた! ぞうぐみのみなさんありがとう!



始まる前のミーティング (カードは使わなかった)

後日談  
2週間後に親子向けワークで来園したら、Aちゃんが見つけてすぐに駆け寄ってくれた



また会えて嬉しい! またいっしょに踊りたいな

# みんなのダンス みんなでダンス

## みやぎ県民文化創造の祭典(芸術銀河) 2023 舞台ワークショップ普及事業 実践の記録

宮城県黒川郡大和町の大和すぎのこども園。地域の子育て支援にも積極的に取り組んでいて、障害のあるお子さんも受け入れています。

芸術銀河2023舞台ワークショップ普及事業として、聴覚障害のあるお子さんのいる4歳児クラスぞうぐみさん向けと、聴覚障害があるママとお子さん向けにダンスワークショップを行った際の記録をまとめました。音声言語に頼らないコミュニケーションや、身体表現の楽しさを創出する機会を増やすきっかけになれば幸いです。



すんぶちよはこれまで、色々な障害のある人たちの芸術活動を行ってきました。重度の障害がある子どもたちのための演劇創作では、感覚を多く使って楽しむ劇を作りました。

自閉症のお子さんを対象にした演劇創作では、内容に見通しがつくように「心のじゅんびぶく」を用意し、はじめから終わりまでのタイムラインがわかるようにしました。

いろいろな人が一緒に活動するためには、工夫が必要なことがあります。その工夫は作り手側にも、思いもしなかった発想や考え方を与えてくれます。

インクルージョンとは、お互いが歩み寄り、出会ってそれぞれの文化や世界を見せ合って楽しむことなのではないかと、最近思うようになりました。

今回の聴覚に障害がある方とのワークショップでも、実施側にもたくさんの方の発見と、感動がありました。

それらを積み重ね、たくさんの方と共有することが、ダイバシティとインクルージョンを広げていく一歩だと考えています。今後も色とりどりの芸術の実践を積み重ねていきたいと思っています。

NPO法人アートワークショップすんぶちよ 代表 及川多香子

お話を伺った時は願ってもない機会で、ぜひお願いしたいと思いました。

こどもの頃の芸術体験は、すぐに成果反応がある場合も、何年、何十年も心に残り、大人になってから表出することもあり、豊かな人格形成に貢献してくれそうです。

さまざまなアーティストとの出会いや、友達との共通の体験を通じて、挑戦する意欲や他者を思いやる想像力など、こどもたちによい影響があるのはもちろんですが、先生方にとっても学びの多い実践の場となりました。良質な具体例を提出していただいて、実際にやっているのを見るのは強い経験になりました。

地元で優秀なアーティストがいる、公演やワークショップのできるホールがある、観る、参加する人もいる、うまくマッチングするには公的な力も必要で、ぜひ今後とも継続していただきたいです。

芸術が、特別なものでなく、普段から身近にあり誰でも楽しめるものであってほしいです。

大和すぎのこども園 園長 工藤 史



主催 みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会  
企画・運営 NPO法人アートワークショップすんぶちよ  
協力 大和すぎのこども園

「手話通訳つき親子ダンスワークショップinこども園」の様子→